

競技注意事項

1. 競技規則

本大会は2024年度日本陸上競技連盟競技規則および本競技会申し合わせ事項により実施する。

2. 競技者案内所（T I C）

競技者案内所（T I C）を競技場正面入口に置き、次の業務を行う。

- (1)各種問い合わせ、審判長への抗議・上訴の受付、落とし物の取り扱いなど。
- (2)プログラム販売（1冊500円）。
- (3)競技に持ち込んで使用するやりの受付と返却。

3. 受付

- (1)競技者受付は各日7時45分からT I Cにて行う。
- (2)受付の際には、プログラムと一般競技者にはアスリートビブスを配布する。
- (3)プログラムの記載ミス（氏名、フリガナ、学年、所属等）については、大会プログラム記載事項訂正申請書プログラム訂正用紙（T I Cで受け取る。）を提出する。

4. 招集

- (1)本競技会では、招集は100mスタート後方の入場ゲート付近に設けた選手招集所で行う。競技場への入場は100mスタート後方のゲートまたはフィニッシュライン後方のゲートとし、招集時間内に入場する。
- (2)招集の際、ユニフォーム、アスリートビブス、競技時に使用するシューズ、商標等のチェックをする。
- (3)代理人による招集は認めない。
- (4)トラックの横断は、すべて競技役員（競技者係・マーシャル等）の指示・誘導によって行い、細心の注意を払うこと。また、出場する選手以外は競技場に入らない。

5. アスリートビブス

- (1)中学生及び高校生はそれぞれの登録番号のアスリートビブスを、大学生及び一般の競技者は主催者が用意したものを、そのままの大きさと胸・背部に固定すること。ただし、跳躍種目の競技者については、どちらか一方でよい。（TR5.7/5.8/5.9）
- (2)1500m以上の競技者は、腰ナンバー標識をパンツ右側の上部やや後ろに付けること。このカードは競技者係で受け取り、フィニッシュ後は返却する必要はない。さらに5000mに出場する競技者は、胸と背にレーンナンバー標識をつけること。カードを受け取っただけでは招集完了とならないので注意すること。

6. 競技方法

- (1)トラック競技
 - ①レーン順はプログラム記載通りとする。
 - ②短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走ること。
 - ③直線で行う競技については、風の状況によりバックストレート側の走路を使用する場合もある。バックストレート側走路を使用する場合は、競技30分前までにアナウンスで告知する。
- (2)フィールド競技
 - ①試技順はプログラム記載通りとする。
 - ②フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
 - ③跳躍種目及びやり投の競技者は、助走路の外側に主催者が用意した規定のマーカーを2個まで置くことができる。ただし、走高跳は競技者が準備したマーカーを助走路内に置くこととする。
 - ④砲丸投・円盤投・ハンマー投についてはサークル直後あるいはサークルに接して、主催者が用意したマーカーを1つだけ置くことができる。これらのその撤去は使用した競技者が責任をもって行うこと。

競技注意事項

⑤走高跳、棒高跳のバーの上げ方は、以下のとおりとする。ただし、天候等の状況により練習の高さを含め変更することもある。

種目	練習の高さ	1	2	3	4		
男子走高跳	1組 1m20/1m35/1m50	1m25	1m30	1m35	1m40	2m00まで5cmずつ	以後3cmずつ
	2組 1m55/1m70/1m85	1m60	1m65	1m70	1m75		
女子走高跳	1m15/1m35/1m55	1m20	1m25	1m30	1m35	1m60まで5cmずつ	以後3cmずつ
男子棒高跳	2m20/2m70/3m30	2m20	2m30	2m40	2m50	以後10cmずつ	
女子棒高跳	2m00/2m50/3m00	2m00	2m10	2m20	2m30	以後10cmずつ	

⑥三段跳びの踏切板は、男子が13mと10m、女子が10mと8mの地点に設置する。競技者はどちらの踏切板を使用するか競技開始前に競技役員に申告する。ただし天候などの状況によって、変更する場合がある。

⑦投てき練習は、長野運動公園運動広場（アクアウィング東隣り）で行う。練習を行う場合は審判の指示に従って行うこと。

(3) 抗議と上訴

競技会進行中に起きた競技者の行為、または順位に関する抗議は、正式結果が発表されてから30分以内、その種目に出場した競技者自身または代理人がTICまで申し出る。その抗議に対する審判長の裁定に納得ができない場合は、 Jury に上訴することができる。その手続きは、「上訴申立書」を記入し預託金（1万円）を添え、TICまで申し出ること。

(4) 助力

- ①競技者が競技場所を離れる場合は、競技役員に申し出なければならない。（コーチング、トイレ等）
- ②ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーやスマートフォンもしくは類似の機器を競技場内に持ち込むことはできない。
- ③コーチ等からの助言は競技場区域外（スタンド）のコーチングエリアのみとする。その際、そこで撮影した機器を、提供する者のすぐ近くの位置で競技者が手に取って操作することは助力にならないが、映像確認後に再生機器を返さず、競技場所等へ持ち込むことは助力をみなす。

7. その他

- (1) 競技で使用する用器具はすべて主催者が準備したものを使用しなければならない。ただし、棒高跳用ポール、やり投用やりは、個人所有のものを使用できる。やりの持ち込みについては、招集完了時刻の1時間前までにTICに持参し、返却もTICで行う。やりの持ち込み希望者は、招集完了時刻の1時間前までにTICに持参し検査を受けること。検査に合格した用具は一括借り上げとし、参加競技者で共有できるものとする。なお、競技終了後にTICで返却する。(TR32.2[国内])。
- (2) スパイクピンの長さは9mm以内とし、走高跳・やり投は12mm以内とする。
- (3) 競技場に商品名のついた衣類、バッグを持ちこむ場合は日本陸連「競技会における広告および展示物に関する規程」に順守すること。
- (4) 芝生スタンドへの出入りは、100mスタート後方とフィニッシュライン後方の出入り口のみとする。
- (5) テントを張る場合は芝生スタンドのみとし、メインスタンドには張らない。
- (6) 応援については、メインスタンド及びフィールド競技の進行の妨げとなる場所での集団応援はしない。
- (7) スタンドからの撮影は、その選手の関係者のみ許可し、それ以外の撮影は認めない。また、撮影禁止エリアでの撮影は一切できない。
- (8) ウォームアップ場（補助競技場）への監督・コーチの入場は認める。ただし、雨天走路への入場は、混雑が予想されるので、認めない。
- (9) 競技場所からの退場は、スタートライン後方またはフィニッシュライン後方のゲートと、マーシャル他競技役員の指示により退場する。